



2017年8月5日土曜日の12時～17時。参加者、堤寛、SAYOKO、ご夫婦1組、女性患者2名が参加。おしゃべりしながら、楽しいひとときを過ごしました。初期治療を終えた方たちは、「難関を通り過ぎた」だけあって、日常を楽しく余裕と精神的な強さを兼ね備えている。病を得て人生を豊かにできるお手本だ。それぞれが、日々の茶飯事を話し、互いに耳を傾けた。こころを開いて話す、こころを傾けて聴く。参加者のひとりが、ジャズピアノを弾くので、披露していただいた。そのあと、もうひとりが、ピアノを弾きだし、実はピアノを習っていたという。そこで、その場で、堤のオーボエとの合奏が始まった。和気あいあいと、患者も医療者も「人間」としての交流は、互いの時間を豊かに過ごせるものだ。患者と医療者の楽しい人間交流は、互いの人生を豊かにすると思う。

By SAYOKO

●参加者のようす

13時にご夫婦2名がまず来室。14時頃あと女性2名が東京から来室。初対面では、はじめは遠慮がちだったものの、お茶を飲みながら話していると、次第に打ち解け、おしゃべりはすすんでゆく。1人がジャズピアノを弾くということで、披露してもらった。ライブハウスの午後のひとときのようにであった。音楽はひとを和ませる。無条件に心に響く。そしたら、私たちにも演奏してというので、1曲披露。そのうちに、もうひとりが、実は私も子供のころ・・・と、そこにある譜面を初見で弾くのであった。そして、それでは、と、堤のオーボエに合わせて参加者のピアノ伴奏で合奏となった。なんだか、楽しい音楽会のようになった。「楽しい」気分は、人生を楽しくすることを実感した。みなさん、「楽しかったわ。ありがとう」と言われてお帰りになった。

●参加者の感想・・・後日、参加者1名に感想を下さいとお願いしたら、こんな風にいただきました。
楽しい午後でした。

健康食、野菜の話、サプリや漢方、色々な話ができて、楽しかったです。

まずは、健康で幸せになることが、大切ですね！

参加社の方、先生とサヨコさんの音楽演奏も素敵でした！！！！

そして、久しぶりに合奏ができ、とても楽しかったです。

ありがとう！

●コメント： 同席した peer supporter SAYOKO

このようなグループ、初対面のメンバーも含めてのグループは、エンカウンターグループといえよう。何の課題も設定しないで、そこにいあわせた者たちが、その場で自然な対話を通して互いに関わりあうことは、出会いの人生を紡ぐ意味がある。この「病理医と話そう」に参加する方は、少なくとも、病理医、堤と話そうと

■Office ; 「つつみ病理相談所」 pathos223 ■

つつみゆたか

堤寛 医学博士、病理専門医、細胞診専門医

〒470-1151 愛知県豊明市前後町善江 1735 パルネス前後 4 階。412 号室

電話:0562-85-6996 FAX:0562-85-6998 携帯:080-6641-9802

Email:pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL:<http://pathos223.com>

いう共通目的があり、そこにゆけば、同じような人が来るという安心感がある。そこに集まったひとたちは、はじめて出会った方でも、何か共通点があることで、仲間意識をもつ。仲間意識のある場合は、許容の場となる。つまり、自分の思いを自由に話してよい、そんな場となる。一人が話せば、また一人が話す連鎖となる。エンカウンターグループは、それぞれの対話が進むと、グループダイナミックスという個々の活性化が起きる。つまり、最初は静かに関わっていても、短時間のうちに打ち解け、こころが自由に開放されていく。

そんな出会いの場は、心を閉ざしがちな患者にとって、こころを解放できる場となる。それぞれが、自然に自己一致した状況で真摯に関わることができるので、互いにとても充実した時間を体験することになる。「病理医と話そう」という設定は、患者にとって、医療者「顔の見える病理医」がそこにいることで「守られている」という安心感もあるのだろう。そういう意味で、患者だけのグループと一味違うと確信している。

●病理医、つつみゆたかのつぶやき

「病理医と話そう」の第二回目は、第一回目と異なり、多少にぎにぎしい感じで過ごすことができた。12時から準備万端。午後1時にまず地元のご夫婦がみえた。40代の奥さまが頭部の血管肉腫を患っており、放射線治療を受け、抗がん剤治療を続けている。場所が場所だけに手術はできない。幸い腫瘍は劇的に縮小しているが、現在でも病変はまだ残っている。ご主人の言葉や態度から、優しく見守るしかないというやるせなさを感じた。私たちは治療開始当初から、お話を伺い、近くの小さなレストランでのミニ演奏会にいっしょに参加していた。ご夫婦はジャズピアノとベースを演奏する。音楽活動の再開が彼らのこころに安定感をもたらしたことは間違いないだろう。

がんや病気に関する話より、他愛ない世間話をしている午後2時過ぎごろ、2組目の女性たちが遠く東京から来室した。お一人は10年来交流しているベテラン患者であり、世界的なアーティストでもある。卵巣の境界悪性病変の経験者だ。病理診断のセカンドオピニオンで知り合ったことが懐かしい。むろん腫瘍の再発はない。もう一人の女性とはアーティスト女性の紹介でメールでのやり取りを繰り返していたが、お会いするのは今回が初めてだった。東京の病院で肺腺癌の手術を終えた。病理標本を送ってもらい、セカンドオピニオンを受けた。典型的な腺癌で、肺内に病変が2か所認められた。完全に切り切れており、今後は無治療で経過をみることになっている。その正当性を確認させていただいた。40代の彼女は世界を股に活躍するバリバリのキャリアウーマンである。しごとをそろそろ本格的に再開したいと意気込みを語ってくれた。自分の病気をとことん勉強していることは言うまでもない。さまざまはサプリも試して、健康づくりを考え抜いているそうだ。もう大丈夫。

お二人とも、思い立ったらすぐ行動というタイプの行動派。さすが国際派のキャリアウーマンとあらためて感心しきり。いっぽう、地元のご夫婦は最初息をのむ感じが感じられた。時間とともに気心が知れると、楽しく会話がはずんだ。

佐代子の電子ピアノの伴奏で、猛(?)練習中の一曲、8/13(日)に長崎、浦上天主堂での平和を祈るコンサートで披露するヘンデルのオーボエ協奏曲、を披露した。間違いだらけの未完成演奏で恥ずかしかった。促されて、続いて血管肉腫を患う奥さまが得意なジャズピアノ曲を披露してくれた。そして、最後に女性アーティストの伴奏で、バッハのオーボエ曲を合奏させていただいた。気がつくとも場が和み、笑いが満ちていた。音楽のもつ潜在力が感じられた。

5時過ぎに、名残惜しみつつ、皆さんとお別れした。またいつでもいらしてくださいね。ありがとう。

■Office ; 「つつみ病理相談所」 pathos223 ■

つつみゆたか

堤寛 医学博士、病理専門医、細胞診専門医

〒470-1151 愛知県豊明市前後町善江 1735 パルネス前後 4階. 412号室

電話:0562-85-6996 FAX:0562-85-6998 携帯:080-6641-9802

Email:pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL:<http://pathos223.com>